

令和元年度(第12回)国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」の受賞について

循環のみち下水道賞は、健全な水循環、資源・エネルギー循環を生み出す21世紀の下水道のコンセプト「循環のみち下水道」に基づく優れた事例を表彰する、平成20年に創設された国土交通大臣賞です。

この度、東松島市立矢本西小学校の運動会において、災害用マンホールトイレを会場トイレとして利用した取組が評価され、国土交通大臣賞を受賞しました。

この取組は、矢本西小学校、及び父兄の外、本市と同じく大規模災害を経験した熊本県熊本市と連携の上、実施したものです。



国土交通省での表彰式の様子



石井国土交通大臣（当時）からの賞状授与の様子

・取組の概要について

本市では、災害時の断水や停電でも利用できる「災害用マンホールトイレ」について、小中学校や市民センターなど16箇所に100基以上設置しています。

「災害用マンホールトイレ」は、有事の際に利用してこそ意味のあるものです。

このことから、本市では「見て触る」ではなく、「実際に使ってみる」というコンセプトで、市内で開催されるイベント等において、会場トイレとして来場者に実際に利用してもらう取組を進めています。

今回受賞した取組は、小学校で行われた運動会の会場用トイレとして利用したものであり、東日本では初めて、全国的にも2例目の取組となりました。

また、この取組では、本市と同じくマンホールトイレの普及を進める熊本市と情報共有を行うなど、両市が連携して実施しました。

本市と熊本市は、共に大規模災害を経験していますが、復旧、復興が進み、災害の傷跡が消えていくにつれ、人々の記憶も薄れてきているほか、そもそも災害を経験したことがない方々も増えてきています。

そのような中、災害の記憶と経験を、どのように後世につなげていくかは、両市にとり、共通の課題ともなっています。

子ども達を対象とした普段使いの取り組みは、「子供の頃からの意識づけ」だけではなく、子どもを通じ、各家庭に防災意識を呼び戻す、とても重要な意味もあるものと考えています。

災害はいついかなる時に起こっても不思議はありません。

引き続き、両市で開催される運動会や市内イベントを通じて、情報共有等の連携を図りながら普及啓発に取り組んでいきたいと考えています。

広報・教育部門

運動会でマンホールトイレ

～遠く離れた2つの都市からの発信～

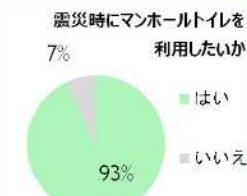
応募団体名) 東松島市・熊本市

熊本県熊本市

令和元年5月26日実施



利用者
延べ120人
アンケート73人
【大人46人子供27人】



熊本市
2基設置

東日本大震災・熊本地震で
マンホールトイレが活躍
【震災時相互支援】

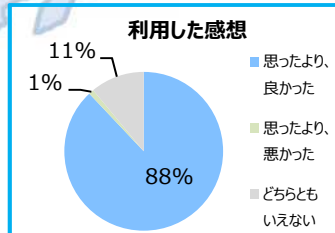
宮城県東松島市

令和元年5月25日実施



東松島市
8基設置

利用者
延べ770人
【男426人女344人】
アンケート 137件



両市では今後も意見交換しながら、
継続的に展示、イベント等の内容を全国に発信していきます。

PRポイント1 マンホールトイレに興味をもってもらい、多くの方に使ってもらえた！

マンホールトイレを実践した被災都市である東松島市と熊本市が連携し、小学校の運動会で使用した内容について発信しました。東松島市からはこれまでイベント等において普段使いを実践した成果を、熊本市からは地震災害の知見を提供し、小学校の運動会の運営について話し合い実現しました。当日は、マンホールトイレに興味をもってもらい、多くの方に使ってもらえました。アンケートを行った結果、両市とも約90%の方から好意的な感想をいただきました。

PRポイント2 設置運営の課題が見え、今後の施設の改善につながる！

今回の運営で新たな課題点を見つけることが出来ました。課題は、テントの中が暑い、ポンプ使用が分かりづらい、ペーパーの予備置き場がない、使い方が分からない、子供には開閉チャックが高すぎるなど、実際に利用しなければ見えてこないものでした。運動会等での設置運営は、今後の施設の改善につながると考えています。

運動会でマンホールトイレを使用するにあたり、小学校からの全面的な協力を受け、多数の教職員と保護者の方々に参加いただきました。マンホールトイレの普段使いについては、これまで8回実施しており、回数を重ねる毎に、積極的に設置運営に参加する方々が増え、防災意識の高まりを感じているところです。今後も、被災地同士、熊本市と連携して普及啓発を進めながら、施設の充実を図り、安心安全で快適なマンホールトイレを目指していきます。

昨年7月、NPO法人主催の「災害時のトイレ・下水道フォーラム」にパネリストとして参加した際、災害時と平常時におけるマンホールトイレの活用について意見交換したのですが、東松島市さんと席が隣になったことが事の始まり（いっしょにやりましょう）です。これからも被災都市である両市が連携してマンホールトイレの普及にドライブをかけていきます。



熊本市上下水道局
管路維持課長 藤本 仁



東松島市建設部
下水道課長 八木 哲也